

第2章 石井地区生物資源産業学部豚舎新営に伴う 試掘調査

第1節 調査の概要

a. 調査地の所在地	徳島県名西郡石井町字石井 2201-1
b. 調査の目的	徳島大学生物資源産業学部豚舎新営に伴う試掘調査
c. 調査面積	5.6 m ²
d. 調査期間	2015年2月19日
e. 調査主体	国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室（室長・端野晋平）
f. 調査担当	端野晋平（調査主任） 脇山佳奈（埋蔵文化財調査室・特任助教） 三阪一徳（埋蔵文化財調査室・助教）

第2節 調査の経緯

2014年12月、国立大学法人徳島大学は、徳島県名西郡石井町所在の徳島県立農業大学校跡地（以下、石井地区と呼称する）での生物資源産業学部豚舎の新営を計画した。これまで石井地区の周辺では、南西側に高良古墳、北東側に利包古墳、山ノ神古墳、東側に弥生時代中期～後期の集落が検出された清成遺跡、北西側に古墳時代～中世の遺構が検出された井ノ元遺跡などが確認されている（第7図）。

新営予定地は石井地区の南側に位置し、「徳島県遺跡地図 石井」の遺跡番号112（弥生時代の集落）に示される埋蔵文化財包蔵地の範囲内に所在する。そこで、同地点においての埋蔵文化財の有無、包含層までの深度の確認を目的とした試掘調査を実施することとなった。

調査は、予定地の東寄りに試掘坑1か所（南北2.8m、東西2.0m）を設定し、調査員3名が担当した。試掘面積は掘削予定面積260 m²の2.2%にあたる（第8図）。

第3節 調査の記録

1. 層序

本調査地点では、以下の5層を確認した（第9図）。

1層：黄灰色砂層。1～3mm大の石、1～10cm大の礫を多量含む。上面の標高は約11.7m、厚さは約10cmを測る。コンクリート舗装のための路盤と考えられる。

2層：青灰色粘質土層。グライ化。5mm大の石を少量含む。上面に1～3cm幅で鉄分の沈着が認められる。上面の標高は約11.6m、厚さは10～20cmを測る。近代の水田耕作土と考えられる。

3層：灰黄褐色土層。木片、木の枝を多量に含む。レンガ片1点が出土した。上面の標高は11.3～

11.5 m、厚さは40～60 cmを測る。近代の整地層と考えられる。

4層：褐灰色粘質土層。粘性が強く、木の根を多量に含む。上面の標高は約11.0 m、厚さは20～40 cmを測る。近代以前に形成された湿地環境を想定しうる。

5層：橙色土層。5～10 cm大の結晶片岩礫を多量に含む。上面の標高は10.6～10.7 mを測る。地山である。

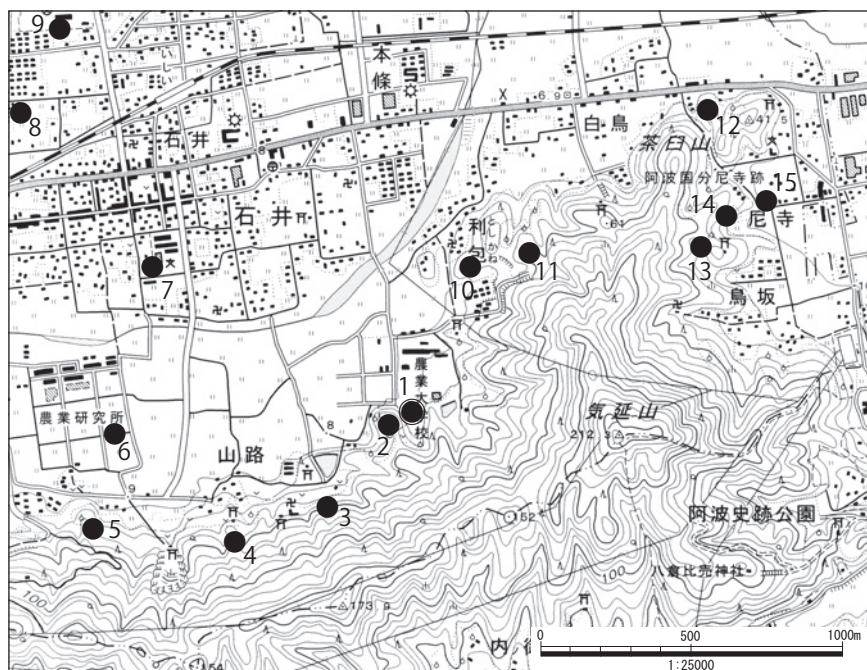
2. 遺構・遺物

本調査地点では遺構は確認されなかった。遺物は3層から近代のレンガ片1点が出土した。

第4節 ま と め

本地点では、近代になって、それまで湿地環境であったところに整地がなされ、水田として利用が始まったとみられる。「正式2万分1地形図 石井」（陸地測量部、明治29年測図）によれば、測図当時の本地点一帯は水田地帯であったことが分かり、これは調査所見と合致する（第10図）。その後、1967（昭和42）年の徳島県立農業大学校の新築移転に先立ち、さらなる土地のかさ上げと整備が行われたと考えられる。なお当初、懸念された弥生時代の遺構および包含層は検出されなかった。

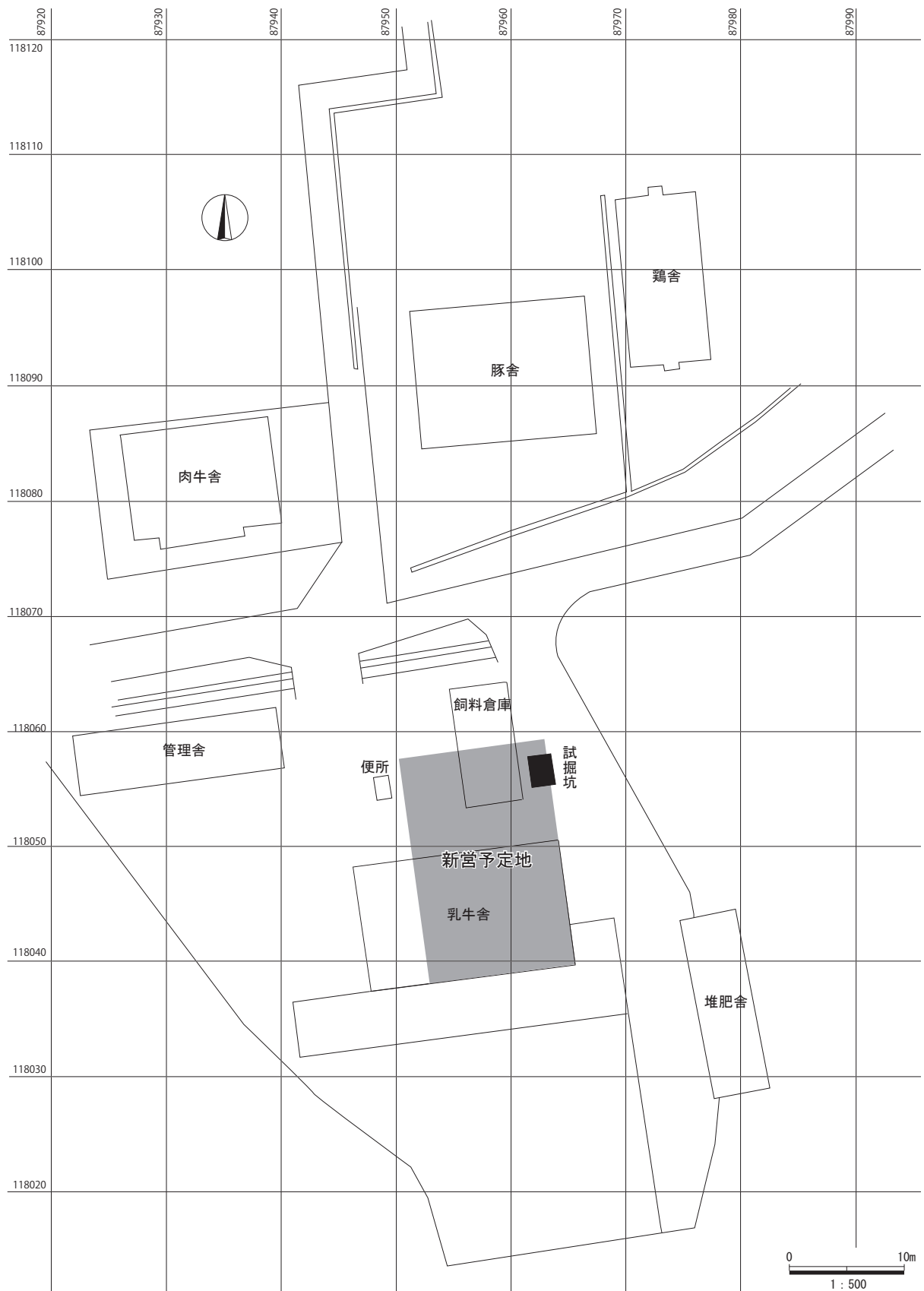
（端野晋平）



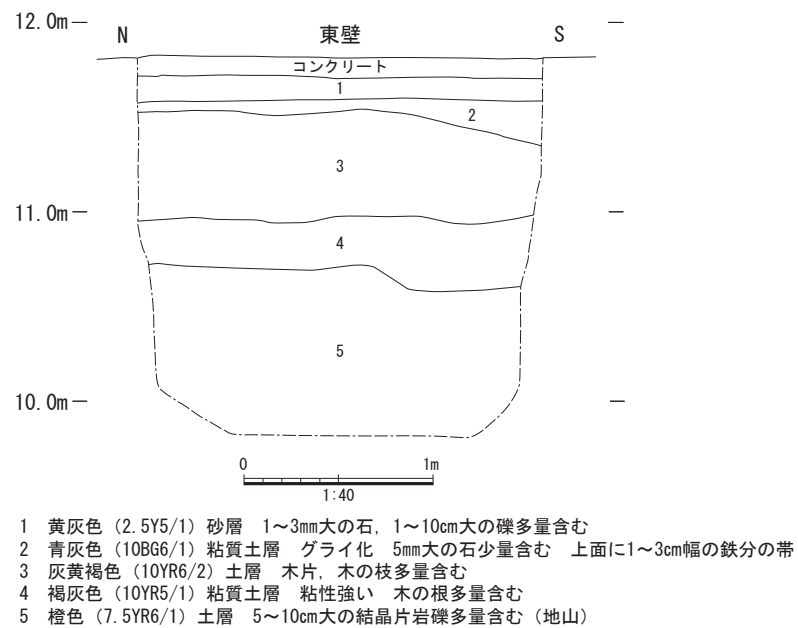
1. 本調査地点
2. 高良古墳
3. 阿波国造墓碑
4. 八倉姫神社石棺
5. 清成古墳
6. 清成遺跡
7. 井ノ元遺跡
8. 石井遺跡（中央団地）
9. 石井遺跡（名西高校）
10. 利包古墳
11. 山ノ神古墳
12. 尼寺古墳群
13. 内谷古墳群
14. ひびき岩古墳群
15. 国分尼寺

第7図 調査地点の位置

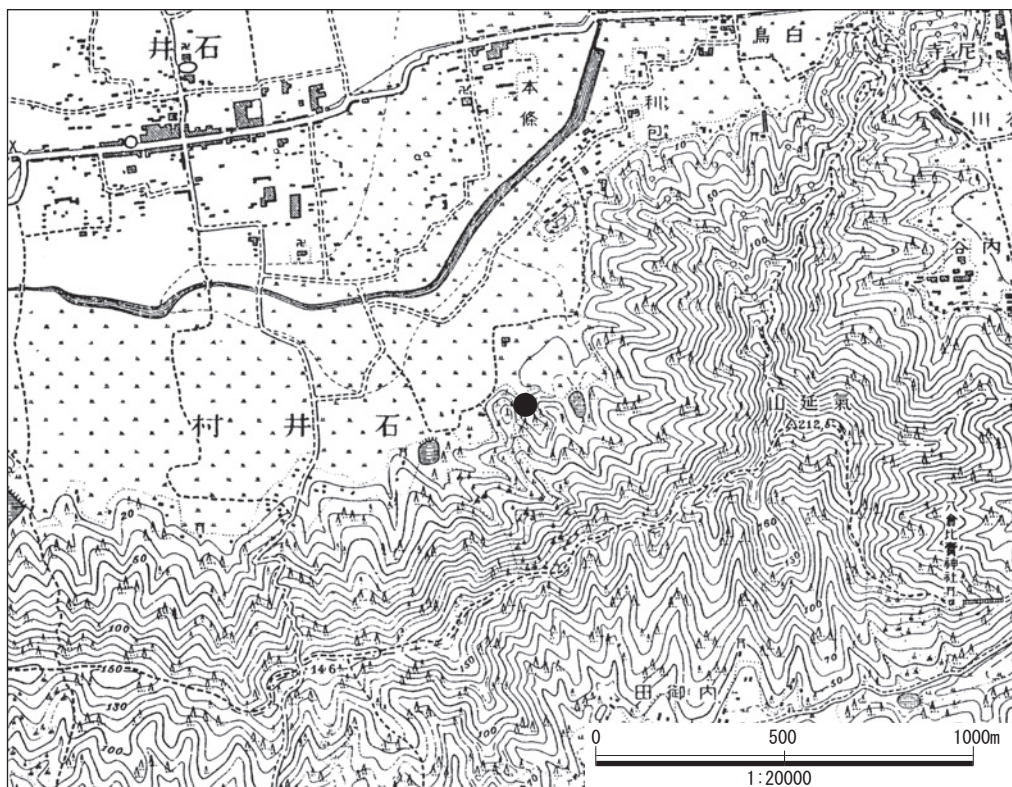
国土地理院「2万5千分1地形図・石井」より引用・改変



第8図 試掘坑の位置



第9図 土層断面図



第10図 明治29年における調査地点周辺の土地利用状況
陸地測量部「正式2万分1地形図・石井」より引用・改変

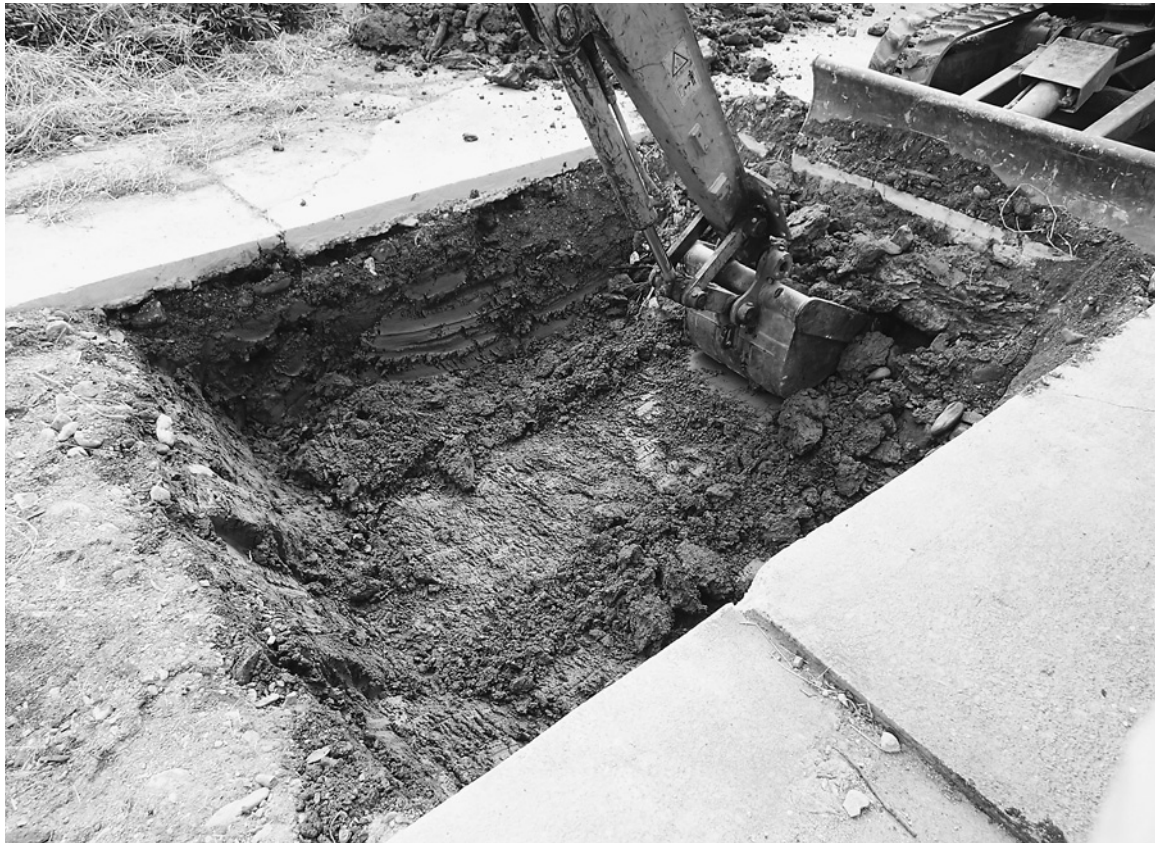


写真3 重機掘削風景

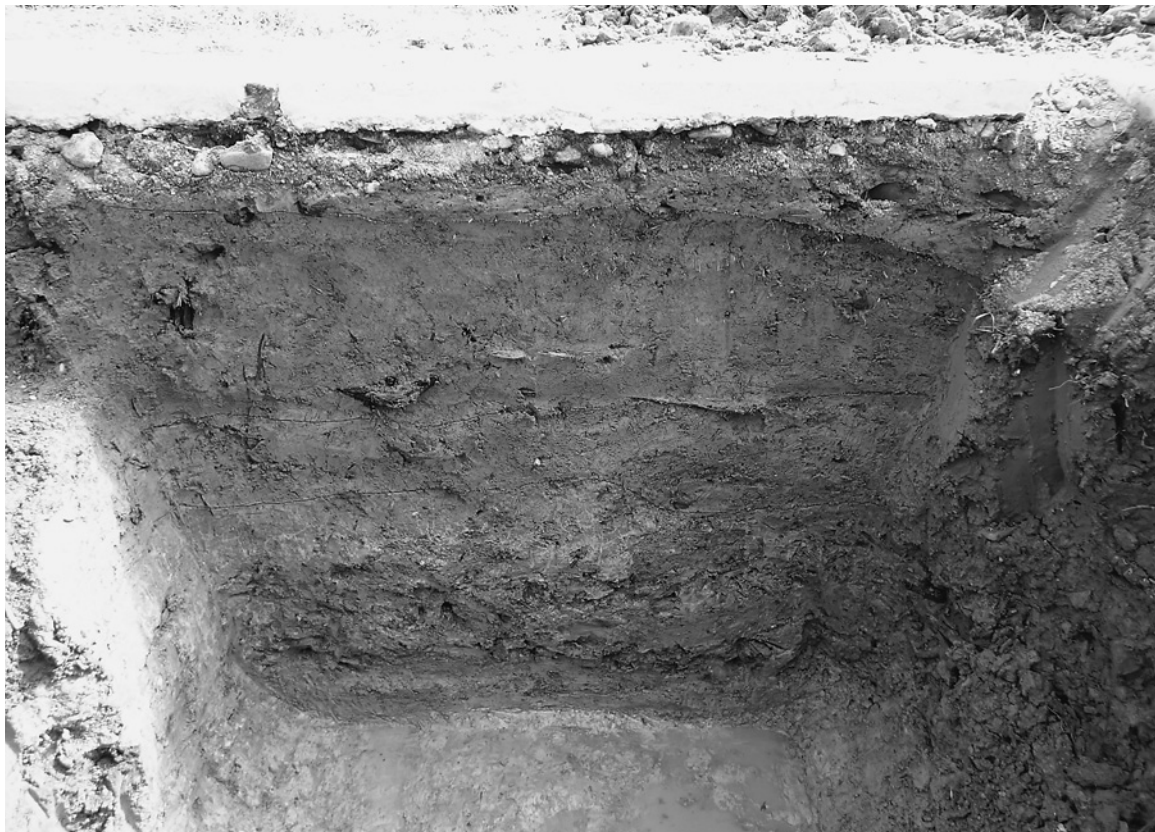


写真4 試掘坑東壁土層断面（西から）